

# ダーク・ウォーター

2005(平成17)年9月29日鑑賞(試写会・ナビオ TOHO プレックス)

★★★★



監督=ウォルター・サレス/脚本=ラファエル・イグレシアス/出演=ジェニファー・コネリー/アリエル・ゲイド/ジョン・C・ライリー/ティム・ロス/ビート・ポスルスウェイト/ダグレイ・スコット/カムリン・マンハイム(東宝東和配給/2005年アメリカ映画/105分)

……アパートの天井からの水漏れには誰もビックリするはずだが、すぐ上の部屋が水浸しになっているとしたら……？ 舞台はマンハッタンから一歩離れた(?) ルーズベルト島にあるアパート。ここに主人公の母娘が引っ越してくるには当然、さまざまな日く因縁が。そして現在も娘の親権をめぐる争訟中……。このアパートの中でくり広げられる母と娘の「ダーク・ウォーター」をめぐる妄想の数々は深刻だが、その根源は一体どこに……？ 親子の因縁とりわけ母娘のその強さにあらためてビックリ……？

## 私のキラいなホラー系だが……？

予告編を観た時から、この映画は鈴木光司の原作を映画化した『仄暗い水の底から』(01年)をリメイクしたホラー系だとわかっていた。しかし、主役が美しい母と娘であることと、見た目に怖い映像ではない(?) という安心感を持ったため観に行くことに……？ もっとも予告編で観た蛇口から突然出てくる黒い水や水浸しとなったアパートの部屋の中という『ダーク・ウォーター』というタイトルがピッタリの不気味さは最初から感じていたが……？

## 人間と水

水は人間が生きていく上でもっとも大切なもの。しかし、地球全体の規模から見ると、地球の砂漠化に伴って人間の飲み水は次第に不足しているのが現状。ところが、砂漠地帯や井戸水に頼らざるをえない地域は別として、水道設備が完備

した先進国においては、そういう危機意識が希薄なのが実情。まして「水と安全はタダ」と考えている日本人はかなり異常……？ もっと、生命の根源である水の大切さを人間は考えなければ……？

## 思わせぶりなタイトルの成否は……？

そんな人間が生きていく上で不可欠な水をテーマとして、ブラジルのウォルター・サレス監督が、ハリウッド進出第1弾としてつくったホラー映画がこれ。このウォルター・サレス監督の『モーターサイクル・ダイアリーズ』(04年)はすごく面白い映画だったから(『シネマルーム7』218頁参照)、引き続いてそういう独自路線で行くのかなと思っていたが、この作品で彼はあえて、『シックス・センス』(99年)、『アザース』(01年)のホラー路線にチャレンジ……。そして彼がそのテーマとして選んだのが水。しかも彼は、人間が生きていく上で貴重な水を「ダーク・ウォーター」としてホラー的に活用したが、果たしてその成否のほどは……？

## テーマは母と娘の確執……？

映画の冒頭、ウォルター・サレス監督がこの映画で表現したいテーマが手短な2つの物語によって紹介される。

その第1はよくわかる話で、2005年の今。舞台はニューヨーク。主人公のダリア(ジェニファー・コネリー)と夫のカイル(ダグレイ・スコット)は、現在離婚調停中だが、その争点は一人娘セシリア(アリエル・ゲイド)の親権をどちらがとるか、ということ。男女2人の調停委員(?)の前に並んで座った2人は、最初は質問に対して個々に冷静に説明していたが、そのうち激高して……？

その第2は、1974年シアトル。ここではダリアはまだ5歳の娘。放課後、彼女は雨の中、お迎えに来てくれる母親をじっと座って待っていたが、なかなか母親はやってこず、不安でいっぱい。側に座っているおばさんも不安になるような言葉をかけてくるし、やってきた母親は何も言わず、強引にダリアを車の中に……。こりゃ母娘の関係がうまくいってないことの証拠……。

少女時代のこんな出来事に象徴される母親とのトラウマを抱えたまま大人にな

り、今は同じ年頃の娘セシリアをもったダリアの精神状態は……？ そしてまた、実在しない想像上のお友達「ナターシャ」と1人しゃべる娘のセシリアの精神状態は……？ やっぱり男と違って女は複雑でややこしい……？ しかし、だからこそこんなホラー映画が成立するわけだが……。

## 前提その1 親権争い

離婚調停に伴う（？）親権争いにおける、父側、母側双方の主張ぶりをこの映画で見ていると、調停委員は子供の学校や環境に大きなウエイトをおいて考えていることがよくわかる。つまり、日本のように、離婚となると原則的に子供の親権は母側というわけではなく、父側も真剣に自分の親権を主張しているわけだ。これは決して、父親の子供に対する愛情がアメリカの方が日本より強いというわけではないだろうが、面白い現象……？

しかし、このケースでもそうだが、その場合の父方の母方に対する攻撃のポイントは経済力。すなわち、母親は経済力がないから、まともなアパートに住まず、まともな学校に通わせることができないという主張になるわけだ。そうすると、これに対する母方の反論は、どうしても「そんなことはない」となり、その結果は……？

## 前提その2 アパート探し

親権争いでの主張のぶつかり合いの結果、ダリアはどうしてもまともなアパートとまともな学校を探すことが不可欠となった。そこでダリアは、まずはマンハッタン市内の物件を探したが、都心部は賃料が高い（1000ドル以下の物件はない様子）。そのため、今日ダリアはセシリアを連れて、ロープウェイに乗ってマンハッタンから川を渡り、ルーズベルト島へ。ここなら、意外に時間的にも場所的にも近いうえ、家賃の安いアパートがたくさん。

しかし一緒にアパートに向かうセシリアの足どりは重く、「私は都心がいい。こんな田舎じみた暗いまちはイヤ」とダダをこねる始末……。お目当てのアパートは、屋上に大きな給水塔がそびえる古い建物で、いかにも暗く、エレベーター内にもなぜか水たまりが……。そのうえ、9階にある目的の部屋の天井の一部

には水漏れの跡も……。もっとも、ダリアはこれを見逃していたものの、セシリアはしっかりとこれを記憶に刻みつけていた。さて、その意味は……。さらにもう1つのポイントは、セシリアが屋上で見つけたかわいらしいハローキティのリュック。さて、これは日本版『仄暗い水の底から』における子供用の赤い手提げバッグと同様、落とし物？ それとも誰かのもの？

## ニューヨークの都市計画その1 ルーズベルト島の機能は？

私はアメリカに1度も行ったことがないから、映画の舞台としてよく登場するニューヨークやマンハッタンのまちの地理的状况はよくわからない。各作品ごとに地図で調べて得る知識がせいぜい……。したがってマンハッタンの近く(?)にルーズベルト島があることは聞いていたが、それがどういう位置にあり、いかなる特徴を持った島なのかも全く知らなかった。そこで、都市問題をライフワークとする私としては、パンフレットを素材としてニューヨークの都市計画の勉強を……。その第1は、中心都市マンハッタンとルーズベルト島との位置関係と、ルーズベルト島の果たした都市計画上の役割。パンフレットによれば、ルーズベルト島はニューヨークのイーストリバーに浮かぶ約3.5kmの細長い島で、世界一リッチなまちマンハッタンからは、トラム1本で10分ほどの島とのこと。そしてこの島は、かつては病院、精神病患者や犯罪者関係の施設があったため、ウェルフェア(福祉)島と呼ばれていたとのこと。つまり中心部からうまく隔離できる孤島としての役割がこういう形で生かされていたというわけだ。

## ニューヨークの都市計画その2 高層アパート計画の特徴は？

パンフレットだけではその特徴はわからないが、ルーズベルト島はその後の都市計画で、高層アパートの建築が進められたとのこと。しかし、この映画の中で不動産屋のマレー(ジョン・C・ライリー)が解説(?)していたように、この島はかなり趣味的な建築家たちの実験(?)の対象となったようで、コンクリート打ちっぴなしのブルータリズム様式に染まったため、結果的に似たような建物が建ち並ぶ殺風景な風情になってしまったとのこと。これらの解説がどこまで正しいのか、私にはよくわからないが、少なくともスクリーン上には主人公たちが

居住する10階建てのアパートを中心として、このルーズベルト島の高層アパート群の有り様が印象的に表現されている。いつかは自分の目で直接確認して坂和流レポートを書きたいものだ。

## ルーズベルト島と中之島地区……

大阪市北区の私の事務所や自宅マンションがある中之島地区は、淀川から都島区で南に分岐した旧淀川が安治川となって大阪港に流れ出る途中にできた中洲地帯。そしてここは、マンハッタンのルーズベルト島と違って大阪市の中核部となっているところ。ちなみにこの旧淀川を中心として毎年7月25日に行われる天神祭は日本の三大祭の1つとして有名。そして、大阪は昔から「水の都」といわれ、八百八橋が有名。この映画の舞台となったルーズベルト島でも、大阪と同じように水を中心としたさまざまなイベントがあるのでは……？ この映画はタイトルどおり、このルーズベルト島の特殊性を強調したうえ、その水のイメージを思いっきりホラー映画のネタとして使っているが、「ウォーター」のイメージは必ずしもそんな「ダーク」なものだけではないはず……。さらにこの映画で描かれる毎日の生活は、雨また雨の連続だが、まさかマンハッタンやルーズベルト島がいつもこのような梅雨状態にあるわけではないはずだが……？

## 不動産屋は万国共通だが、管理人は……？

ダリアのルーズベルト島におけるアパート探しの案内をするのは不動産屋のマレーだが、不動産屋のキャラクターやその仕事ぶりは万国共通……？ 愛想を振りまきながら言葉巧みに、この地域の、このアパートの、そしてこの部屋の有利さを説き、躊躇しているダリアに対する最後のとどめは次の見物客……。要するに、こんな掘り出しモノ物件は客が続々と来るので、早く決めないと売ってしまうよ、という一種の脅し……？ このマレーは決して悪人とは思えないが、どうも私はこの種の人間は好きになれない……？

他方、この映画の登場人物として面白いのは、このアパートに常駐している管理人のヴェック（ピート・ポスルスウェイト）。この管理人の身分や雇用関係が法的にどのようになっているのかは、この映画の中での話しぶりだけではよくわ



②受任するについての弁護士費用の決め方

③受任した後の電話による情報交換のやり方（日本では最初から依頼者にケイタイの番号を教えることはまれ……？）

④ダリアからの要請があった場合の迅速な行動力  
といったところか……？

そういうポイントでこのプラッツァー弁護士の仕事を評価すれば、そりゃ満点に近いもの。『仄暗い水の底から』に登場する岸田弁護士と対比してもわかるとおり、日本の並のレベルの弁護士では、とてもここまでは働かないということ、日本の観客は肝に銘じておいてもらいたいものだ……。

## 恐怖のポイントはナターシャ……？

この映画をホラー系として成り立たせているのは、第1にダリアが心の内面に抱える、「母親から嫌われているのでは」というトラウマ。そして第2に、ダリアの娘のセシリアが母親の心の反映として持っている架空のお友だちであるナターシャの存在……？

このナターシャの存在が指摘されたのは、ルーズベルト島のアパートに移転し、結構ランクの高い学校にやっとセシリアを入れた後の、フィンクル先生（カムリン・マンハイム）によるもの。そりゃたくさんの生徒の中で、セシリアが一人であたかも誰かに向かっているようにしゃべっていれば目立つし、ヘンな女の子と思われるのは当然。しかし、ホントにナターシャは架空の存在……？

ナターシャという名前からしてロシア人風だが、何でもダリアとその娘セシリアが入居した9階の部屋の上の10階には、ロシア人夫婦がかわいい一人娘と一緒に住んでいたらしい。もっともこれは、ダリアがヴェック管理人から聞いた説明だが……？

## さらに拡大する恐怖は2人の悪ガキ……？

さらにヴェック管理人の説明によれば、10階からの水漏れの原因は、今は空き家となっている10階の部屋に、悪ガキ少年2人が出入りしているためらしい。しかしそれってホント……？ もっともダリアは現実にこの2人の悪ガキの姿を何

回も見ているうえ、悪ガキから「こんな女とやりたいナァ」と声をかけられたことも……。さらに、地下1階のコインランドリーでは、この2人によってちょっとしたコワイ体験も……。

この恐さが絶頂に達したのは、何と争訟中の夫が、この2人の悪ガキと接触しているところをダリアが目撃したとき。ダリアは直ちにこの情報をプラッツァー弁護士に連絡したが、さてその真相は……？

さあ、こんな断片的な情報から、次第にあなたの恐怖は高まってくるはず……。

## ハイライトシーンにはびっくり！

ホラー映画を面白くさせるコツは、「ネタの小出し」あるいは別の言い方をすれば、「宝の出しおしみ」……？ そして、これはある意味で人生のすべての事柄に通用する心理かも……？

それはともかく、いろいろな恐怖のネタが断片的に提示されていく中、ハイライトとなる恐怖シーンでは、ついにあのナターシャが登場！ さて、このナターシャの暴れようは、そしてその結末は……？ それは映画を観てのお楽しみとしよう……。

## 日米どちらが強い、母の愛……？

この映画のテーマは母と娘の確執だが、そのもっと奥に子を守り通そうとする母親の母性愛があることは当然。したがって、この映画の成否の決め手は、ダリアの母性愛にあることは明らか。そのダリアを演ずるジェニファー・コネリーは、『ビューティフル・マインド』（01年）でアカデミー賞、ゴールデン・グローブ賞、英国アカデミー賞の助演女優賞など主要賞を総ナメにした、1970年生まれの魅力的な女性。

これに対して、日本版『ダーク・ウォーター』である『灰暗い水の底から』の主演は黒木瞳。1960年生まれ黒木瞳はジェニファー・コネリーより10歳も年上だが、美人度においては、アメリカにおけるジェニファー・コネリーのランクより明らかに上……？ しかして、その母親度、母性愛の強さでは、日米どちらが上……？

2005(平成17)年9月30日記